

山口沖 40^キの 新断層

海保発見 活断層が調査へ

海上保安庁は20日、山口県の沖合約20^キ付近の海底から、約40^キ北西に延びる新たな断層を発見したと発表した。

海保の測量船が今年4、6月、海底に音波を発射して調べた結果、断層の活動

によってできたくぼみや盛り上がりが見つかると判断した。

同県下関市から日本海に向けては、1932〜85年、約44^キの活断層帯「菊川断層帯」が確認されており、

将来、マグニチュード7・6クラス以上の地震が発生すると推定されている。今回発見された断層は菊川断層帯につながっているが、

活断層かどうかは不明。活断層の場合にはより大きな地震が起きる可能性がある



ため、独立行政法人・産業技術総合研究所で調査を進めることになっている。

海保は、21日に開かれる地震予知連絡会に報告するほか、関係機関に情報を提供して研究に役立ててもらおうとしている。